

総合開館 20 周年記念

TOP コレクション 東京・TOKYO

20 Year Anniversary TOP Collection: Tokyo Tokyo and TOKYO

2016 年 11 月 22 日 (火) ~ 2017 年 1 月 29 日 (日)



本城直季
《東京タワー 東京 日本 2005》
〈Small Planet〉より
2005 年 発色現像方式印画

東京都写真美術館は、より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年違ったテーマを立てて収蔵品で構成するコレクション展を開催しています。リニューアル・オープン後最初のコレクション展は、「東京」をテーマに開催します。

東京は、誰もがその言葉からさまざまなイメージを思い浮かべることができる都市です。しかし、そのイメージは人それぞれに異なり、一つのイメージへ集約しきれない不思議さを持っています。また、東京はこれまでたくさんの写真家のインスピレーションの源にもなってきました。写真家たちは、この多層的な都市とそれぞれどのようなアプローチで対峙し、どのような視点で切り取り表現してきたのでしょうか。

本展では、「東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する」という、当館の収集方針の一つのもとに集められた作品の中から、戦後から現代の作品を中心に紹介いたします。

予定出品作家

石元泰博、大西みつぐ、鬼海弘雄、児玉房子、高梨豊、田中長徳、土田ヒロミ、東松照明、林忠彦、三木淳、山内道雄、レオ・ルビンファイン、荒木経惟、倉田精二、森山大道、朝海陽子、伊奈英次、北島敬三、島尾伸三、瀬戸正人、中野正貴、宮本隆司、尾仲浩二、富山治夫、林隆喜、山本糾、秋山忠右、小林のりお、檜橋朝子、ホンマタカシ、須田一政、清野賀子、鷹野隆大、花代、糸崎公朗、佐藤時啓、奈良原一高、西野壮平、畠山直哉、林ナツミ、本城直季

図版はすべて東京都写真美術館蔵



ホンマタカシ
〈Tokyo and My Daughter〉より
1999-2010年
発色現像方式印画
©Takashi Homma ※参考図版



畠山直哉
《#066》〈Slow Glass/Tokyo〉より
2006年
発色現像方式印画

展示構成

街のネオン 高層ビル 東京タワー スクランブル交差点…
高度成長期、バブル期、リーマンショック… 多様性 個人的…
写真家たちは、この多層的な都市を
どのようなアプローチで対峙し、どのような視点で切り取り、
何を表現しようとしたのでしょうか。

1 街角で

人や車、モノで溢れ、騒々しく華やかで、様々な人に出会える街。東京をそのようにイメージする人は多いことでしょう。写真家たちも、この不思議なエネルギーに満ちた街を、さまざまなアプローチで捉えてきました。人々の姿を、街の様子を、そして、東京を離れた外側の目で、様々な視点で切り取った作品から浮かび上がる東京の姿をご紹介します。



左) 林忠彦 《太宰治》〈文士の時代〉より 1946年 ゼラチン・シルバー・プリント
上) レオ・ルビンファイン《公務員の年始まわり 東京・虎の門 1988》〈東洋の地図〉より
1988年 発色現像方式印画 Courtesy of Taka Ishii Gallery, Tokyo

2 裏路地で

写真家たちは東京の華やかな表通りとは別の、裏側の人間模様も捉えてきました。それらは、私たちが気づかなかったものや、見過ごしてきたもの、あるいはわざと見過ごしたくなるようなものも含まれるでしょう。華やかさの裏側の、とても生々しく、ディープで、よりリアルな現実を私たちは見ることができるでしょう。



荒木経惟〈写真論〉より 1988-1989年
ゼラチン・シルバー・プリント

3 東京エアポケット

東京の大都市のイメージは自然とはあまり結びつきませんが、東京を移動してみると、皇居をはじめとする庭園や、動物園や公園などが突然現れます。都会の喧噪のなかで、そこだけ別の時間が流れていて都会のエアポケットのようです。



森山大道 《(6)井の頭公園》〈桜花〉より
1981年 ゼラチン・シルバー・プリント
©Daido Moriyama Photo Foundation

4 見えないものを覗き見る

「そのときしか見られない」とか「誰でもが見ることができるわけではない」となると、見たいと思うのが人の心理であり、記録したいと思うのが写真家なのかもしれません。人のいない東京や他人の家の中など、ふだんは見ることのできない場面をカメラは捉えています。



中野正貴 《Ichinohashi Jct. Minato-ku, May 1999》〈TOKYO NOBODY〉より
1999年 発色現像方式印画

5 境界線の拡大、郊外・サバービア

東京には海があり、山があり、島があり、「大都会・東京」というイメージとはやや異なる東京が見えてきます。都心で働く人々のベッドタウンとして、便利さを備えた人工的な街が都心を囲んでできあがり、近隣県へと東京の郊外が拡大し、行政上の区分としての東京とは異なる境界線があるようです。



小林的りお 《東京都八王子市南大沢》
1984年 銀色素漂白方式印画

6 どこでもない風景

東京の特徴的な場所を撮影するのではなく、どここの街にもあるようなふとした風景を撮影する写真家があります。東京は特別な意味をもたない、ただそこにある場所。あるときはどんな場所かにかかわらず大切なたった一つの場所であり、またあるときはたまたま見つけたどこでもよい場所でもあるのです。



清野賀子 《隅田川、東京》〈Emotional Imprinting〉より
1996年 発色現像方式印画



鷹野隆大 《〈040824k〉(東京・杉並区)》〈カスババ〉より
2004年 発色現像方式印画
©Ryudai Takano Courtesy of Yumiko Chiba Associates, Zeit-Foto Salon

7 多層的都市・東京と戯れる

時代が平成になり、写真家たちは東京を舞台あるいはフィルターとして、まるで東京と戯れるように、軽やかに自由な手法での表現を試みています。撮影に人工的な仕掛けを加えてみたり、東京のイメージを切り取り、貼り付け、重ねたり、組み立てたり、架空の設定をつくりだしたり。こうした東京との戯れは、これまで見落としていた東京の姿や特徴を再発見させるスイッチとなっています。



林ナツミ 《Today's Levitation 02/21/2011》
2011年 発色現像方式印画

本展は、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の場となるよう、毎年異なるテーマを決めて開催している「東京・T O K Y O 日本の新進作家 vol.13」展と同時開催いたします。合わせてお楽しみください。

関連イベント

対話による鑑賞プログラム

出品作品に写っているものについて参加全員で対話しながらじっくり鑑賞したあと、簡単な暗室での制作を行います。※作品解説ではありません

日 時 2016年12月4日(日)、2017年1月15日(日) いずれも 10:30-12:30
対 象 小学生
定 員 各日 20名(事前申込制)
参加費 500円 ※詳細はホームページで発表します

担当学芸員によるギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を行います。

- 1) 会期中の第1、第3金曜日(12月2日、12月16日、2017年1月6日、1月20日) 16:00より
- 2) お正月ギャラリートーク 1月3日(火) 11:30より

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

展覧会図録

『TOP コレクション 東京・TOKYO』

主な出品作品図版、出品リスト、展覧会担当学芸員のテキストを掲載(和英バイリンガル)

編 集 東京都写真美術館

発 行 Case Publishing 約170頁を予定 価格未定

開催概要

主 催 東京都 東京都写真美術館／東京新聞

協 賛 凸版印刷株式会社

会 期 平成28(2016)年11月22日(火)～平成29(2017)年1月29日(日)

会 場 東京都写真美術館 3階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)

※ただし2017年1月2日[月・振休]・3日[火]は11:00～18:00 入館は閉館30分前まで

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館、ただし1月3日は開館)、

年末年始2016年12月29日(木)～2017年1月1日(日・祝)

観覧料 一般500(400)円／学生400(320)円／中高生・65歳以上250(200)円

※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております
(ただし、参考図版のホンマタカシ〈Tokyo and My Daughter〉を除きます。)
掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングはできません。

図版はすべて東京都写真美術館蔵。

掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目にあります
本城直季《東京タワー 東京 日本 2005》〈Small Planet〉より 2005年 発色現像方式印画
のご掲載を薦めさせていただきます。

このリリースのお問い合わせ先

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 武内厚子 a.takeuchi@topmuseum.jp 鈴木佳子 y.suzuki@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp